

# 令和4年度

## 「防災・減災に関する県民意識調査」

### 概要版

和歌山県

令和5年3月

#### ●調査目的

本調査は、県民の地震・津波及び風水害等に対する認知度や日頃の防災対策等のデータを収集・分析し、今後の防災・減災対策に反映させることを目的とするものである。

なお、これまで平成16・19・22・23・25・28年度、令和元年度に調査を実施しており、今回が8回目の調査となる。

#### ●調査期間

令和4年10月7日から11月4日まで

#### ●調査対象

県内在住の満20歳以上の住民4,000人を、以下の地区別に各市町村の住民基本台帳から無作為に抽出

A 津波避難困難地域(巨大地震)に居住する満20歳以上の住民から80人

B 南海トラフ巨大地震による津波で全域もしくはそのほとんどが浸水深1m以上と想定される地区(Aを除く。

以下、「津波危険地区」という。)に居住する、満20歳以上の住民から540人

C A・B以外の地区(以下、「全県地区」という。)に居住する、満20歳以上の住民から3,380人

各市町村の各地区からの抽出人数は、前回調査(令和元年度)の結果に基づき、ネイマン配分法(最適配分法)で算出している。また、「津波避難困難地域」は、「津波危険地区」として集計を行っている。

#### ●調査方法

郵送配布、郵送及びWebによる回収

#### ●有効回答率

50.4% (津波避難困難地域:51.3% 津波危険地区:50.6% 全県地区:50.4%)

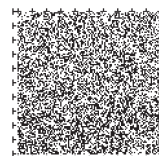
#### ●集計結果数値等の取り扱い

・アンケートには、単数回答(1つだけ選択する回答)と複数回答(該当するもの全てを選択する回答)がある。

・複数回答の場合は、合計が100%を超える場合がある。

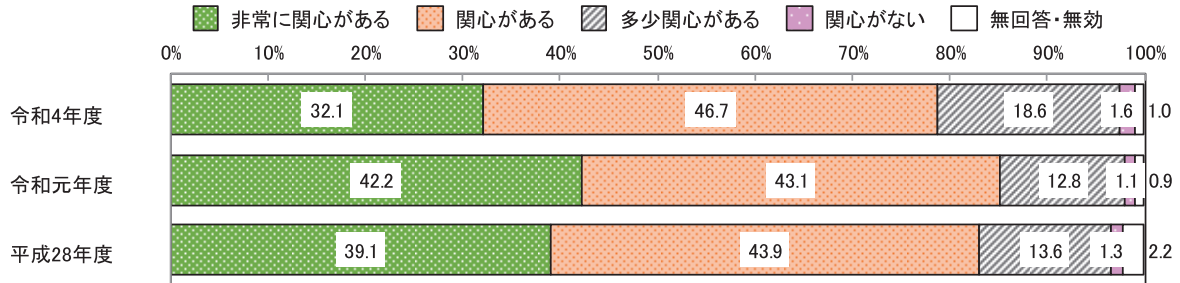
・設問に対して回答がないものや、単数回答の設問で複数選択したものは、

「無回答・無効」として取り扱っている。



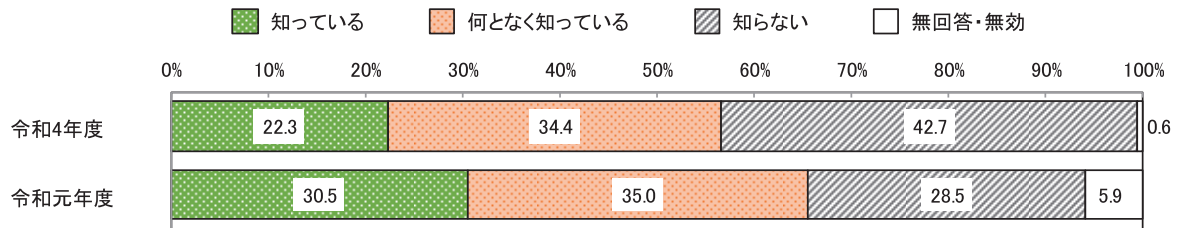
# 南海トラフの地震への関心

**Q** あなたは、南海トラフの地震(東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震を含む。以下同じ。)について、どの程度関心を持っていますか。(単数回答)



**Q** 南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生し、大規模な後発地震が発生する可能性が高まったと評価された場合、気象庁から南海トラフ地震臨時情報が発表されます。地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することとなりますが、このことを知っていますか。(単数回答)

「津波危険地区」結果のみ

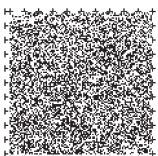


97.4%\*1 の人が南海トラフの地震に関心があると答えています。また、32.1%の人が「非常に関心がある」と答えています。前回(令和元年度)の42.2%からは減少しています。

南海トラフ地震臨時情報発表時の事前避難について「知っている」「何となく知っている」と答えた人の合計は、56.7%となり、前回(令和元年度)の65.5%から減少しています。

南海トラフ地震臨時情報が発表された場合、津波からの避難が間に合わない地域では事前に避難をしていただく必要があります。また、その他の地域でも日頃からの地震への備えを再確認するなどの注意が必要です。(2ページ参照)

\*1)「非常に関心がある」「関心がある」「多少関心がある」を合算した値

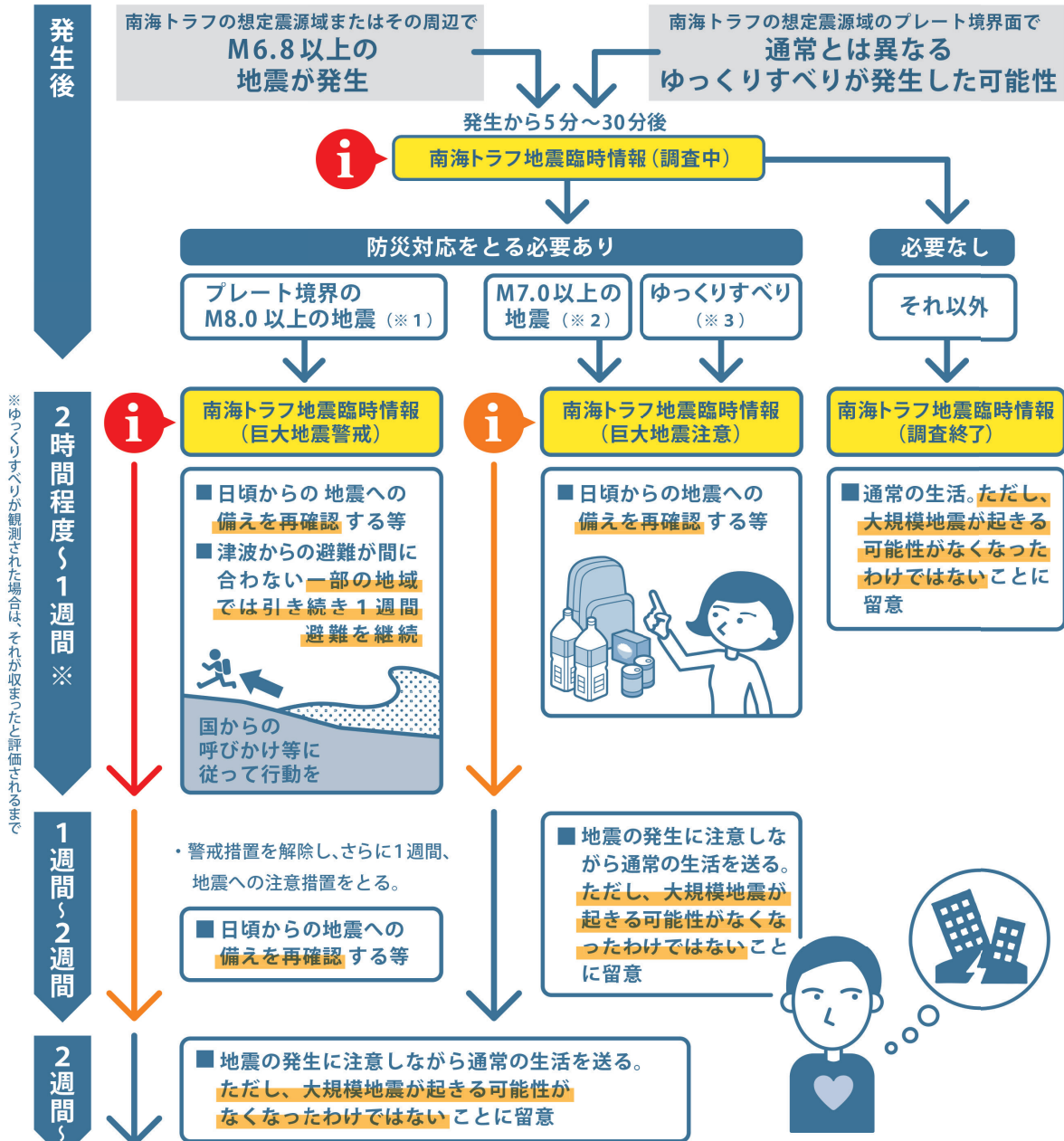




# 時間差で発生する巨大地震に備えましょう ～南海トラフ地震臨時情報～

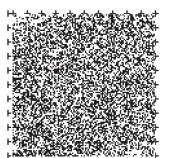
- ・南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- ・政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

## 地震発生後の防災対応の流れ



※1 想定震源域のプレート境界で M8.0 以上の地震が発生  
 ※2 想定震源域、またはその周辺で M7.0 以上の地震が発生 (ただし、プレート境界の M8.0 以上の地震を除く)  
 ※3 住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合など

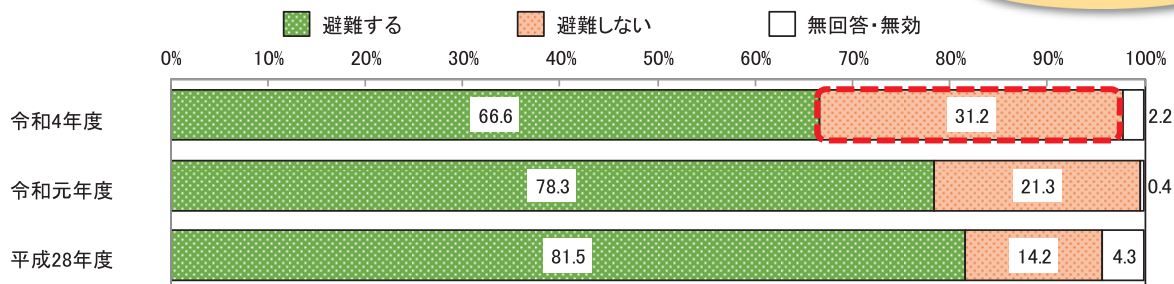
引用:「南海トラフ地震—その時の備え—」(内閣府、気象庁)  
<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index.html>



# 津波からの早期避難

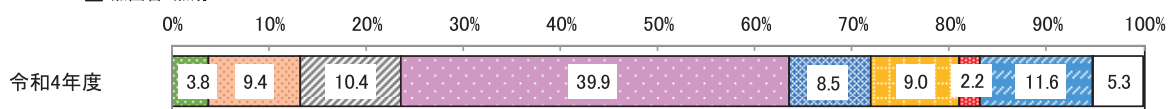
**Q** 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、あなたは避難しますか。(単数回答)

「津波危険地区」結果のみ



**Q** 避難しない主な理由は何ですか。(単数回答)

- 近くの避難場所を知らないから
- 避難経路が危険だから
- 自身や家族の体力や健康上の理由から避難することが困難だから
- 自宅が安全だから
- 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
- ペットを飼っているため、避難所生活が送れるか心配だから
- 感染症が不安だから
- その他
- 無回答・無効



夜間に自宅で大地震に遭遇したとき、「避難しない」と答えた人の割合は31.2%であり、前々回(平成28年度)以降、年々増加しています。また、避難しない理由について、「自宅が安全だから」が39.9%と最も高くなっています。

東日本大震災では、浸水想定地域を大きく越える津波が押し寄せ、多くの人命が失われました。空振りをおそれずに、率先して避難しましょう。

県では、時間が許す限り、より安全な避難場所をめざして避難していただけるよう、独自に避難場所に安全レベルを設定しています。あらかじめどこに避難するかをハザードマップ等で調べておきましょう。

## 津波避難3原則

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ

津波について正しい知識をもちましょう！

- 津波は繰り返してやってくる。第一波が最大とは限らない。(第一波が小さくても油断しない、引いても戻らない。)
- 津波は引き波から始まるとは限らない。
- 30cmの津波でもまきこまれるおそれがある。
- 弱い地震でも大きな津波を引き起こすことがある。
- ゆったりとした長い揺れが続く場合は津波を引き起こす海溝型地震の可能性を考え、避難する。(東日本大震災では3分以上も揺れが続いた地域もある。)

## 避難場所安全レベル



レベル3 ★★★

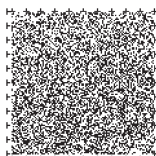
浸水の危険性がない地域で、より標高が高くより離れた安全な場所を指定

レベル2 ★★

浸水予想近接地域で、「レベル3」へ避難する余裕が無い場合の避難場所として指定

レベル1 ★

浸水の危険性がある地域で、時間的に「レベル2・3」へ避難する余裕がない場合の避難場所として指定

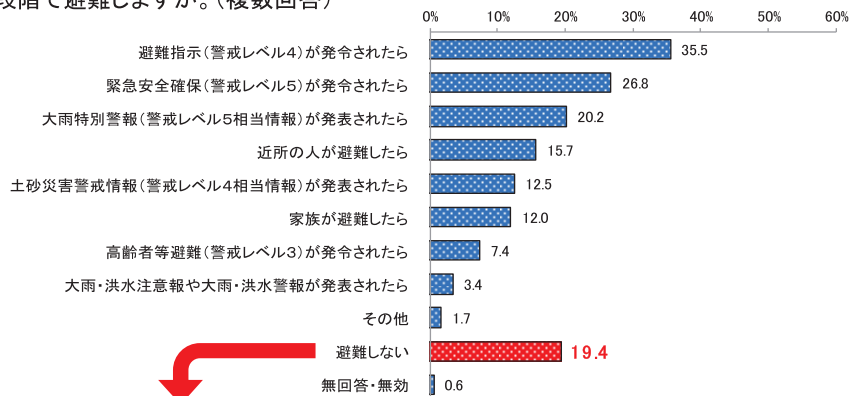


参照:「災害から命を守る避難行動について」(和歌山県HP)  
[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/hinan\\_koudou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/hinan_koudou.html)

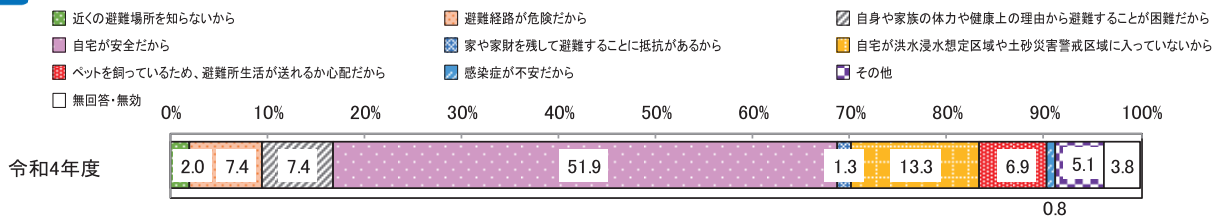


# 風水害への意識と避難

**Q** 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、浸水や土砂災害による甚大な被害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、以下の状況のうち、どの段階で避難しますか。(複数回答)



**Q** 避難しない主な理由は何ですか。(単数回答)

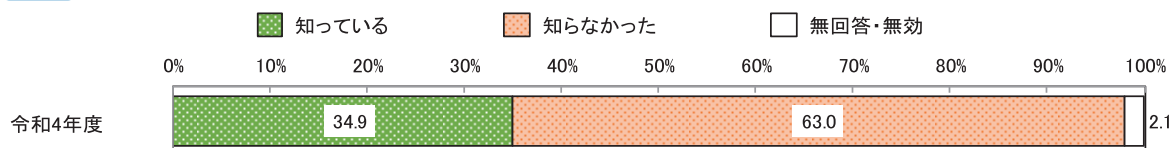


これまでに経験のない大雨が降り続いたとき避難する段階については、「避難指示(警戒レベル4)が発令されたら」(35.5%)、「緊急安全確保(警戒レベル5)が発令されたら」(26.8%)、「大雨特別警報(警戒レベル5相当情報)が発表されたら」(20.2%)の順に答えた人が多い結果となりました。

また、19.4%の人が「避難しない」と答えており、避難しない理由については「自宅が安全だから」が51.9%、「自宅が洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に入っていないから」が13.3%と高くなっています。

避難情報(警戒レベル)とは、災害発生の危険度と、とるべき避難行動を、住民のみなさまが直感的に理解するための情報です。市町村から避難情報が出た場合、「避難情報のポイント」(5ページ参照)に注意して、避難しましょう。

**Q** あなたは、避難所と避難場所の違いを知っていますか。(単数回答)



## 避難場所

災害時、命を守るために緊急に避難する場所で、災害種別(水害、土砂災害、地震、津波など)ごとに指定されています。災害の種類によって避難場所は異なりますので、災害時に誤った避難場所に行くことがないように、日頃から災害ごとの避難場所と避難経路について確認しておきましょう。

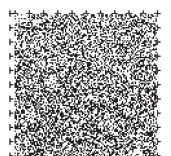
※避難場所は、「緊急避難場所」、「緊急避難先」とも呼ばれています。

## 避難所

災害により自宅に帰ることができなくなった住民等が一定期間滞在する施設等のことです。

参照:「避難場所・避難所について」(和歌山県HP)

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/hinannsaki.html>



# 台風・豪雨時に「避難情報のポイント」を確認し避難しましょう

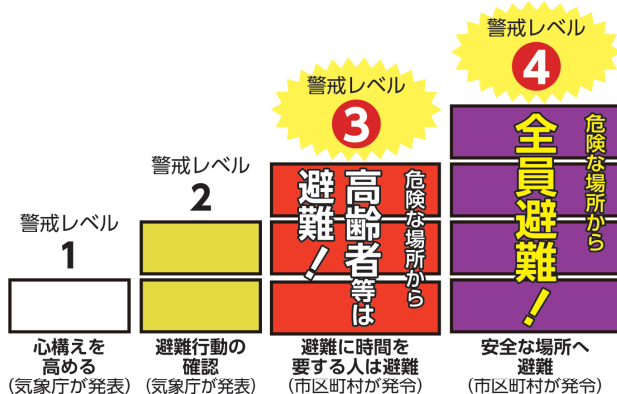
緊急時に確認

## 避難情報のポイント

!.....必ず確認してください.....!

### 市区町村から出される避難情報(警戒レベル)

- ❗ 避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
  - ❗ 危険な場所から警戒レベル3で(高齢者等は避難)、警戒レベル4で(全員避難※<sup>1</sup>)です。
- ※<sup>1</sup>警戒レベル4「全員避難」は、高齢者等に限らず全員が危険な場所から避難するタイミングです。



警戒レベル4 避難指示で危険な場所から避難です

### ❗ 警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。

- ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
- ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません!
- ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。

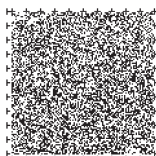
### ❗ 警戒レベル4は避難指示に一本化されました。

- ・避難のタイミングを明確にするため、令和3年の災対法改正以前の警戒レベル4避難勧告と避難指示(緊急)は「避難指示」に一本化され、避難指示は令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令されます。
- ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。

### ❗ 警戒レベル3は高齢者だけの情報ではありません。

- ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。
- ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。

### ❗ 豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。



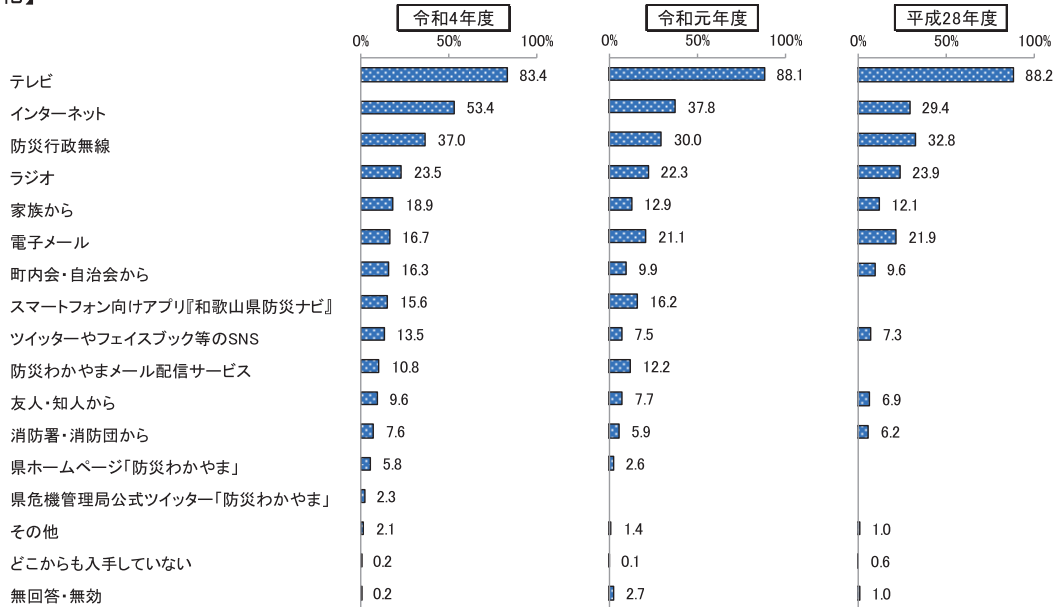
引用:「避難情報に関するガイドラインの改定(令和3年5月)」(内閣府)  
[https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3\\_hinanjouhou\\_guideline/](https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/)



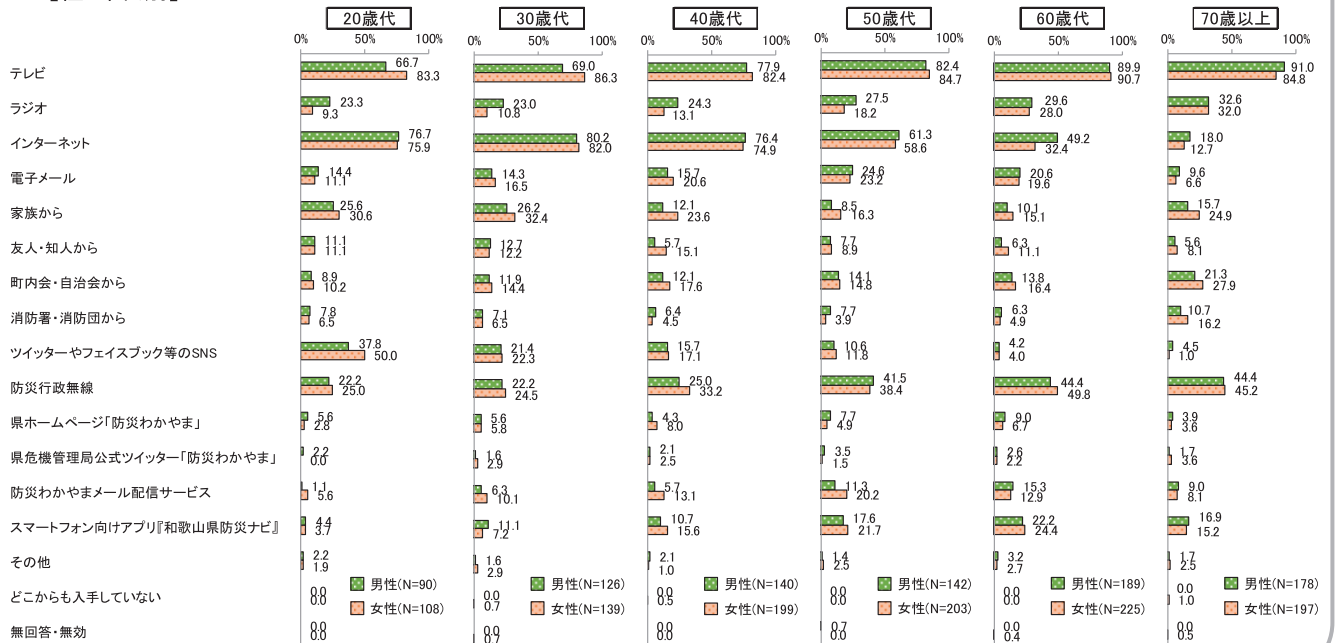
# 災害時の情報収集

**Q** あなたは、災害時における緊急情報をどのように入手していますか。(複数回答)

## 【経年変化】



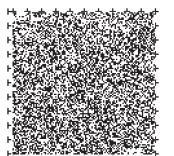
## 【性・年代別】



災害時の情報収集手段については、「テレビ」が83.4%と特に高く、次いで「インターネット」が53.4%となっています。経年変化をみると、前回(令和元年度)、前回々(平成28年度)と同じく「テレビ」が最も高くなっています。

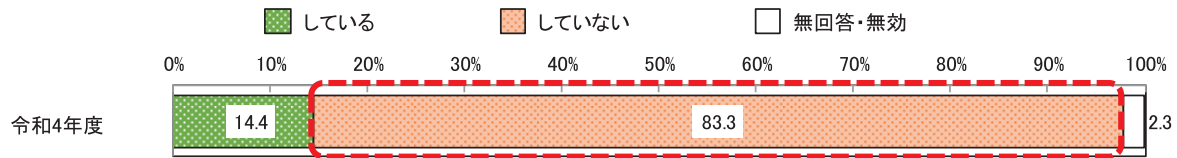
「インターネット」は、前回(令和元年度)の37.8%から増加しています。

性・年代別にみると、「テレビ」の割合が総じて高く、若い世代では「インターネット」の割合が高くなっています。





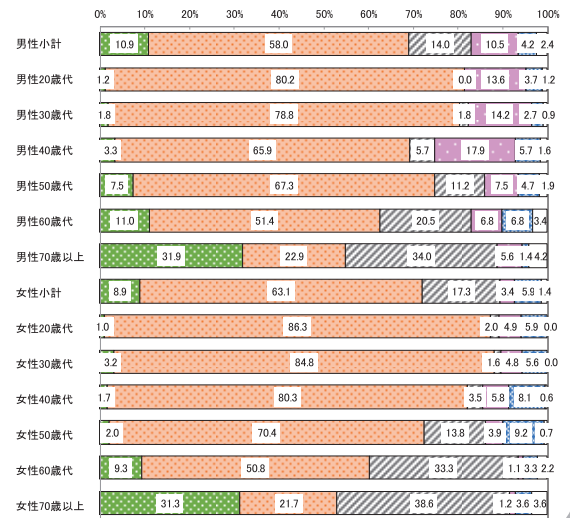
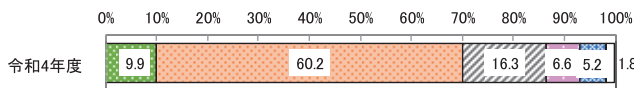
避難先の検索などができるスマートフォン向けアプリ「和歌山県防災ナビ」をインストールしていますか。(単数回答)



インストールしていない理由は何ですか。(単数回答)

【性・年代別】

■ スマートフォン等を持っていないから ■ 知らなかったから ■ インストールの方法がわからないから ■ 興味がないから ■ その他 □ 無回答・無効



和歌山県が平成30年に開発したスマートフォン向けアプリ「和歌山県防災ナビ」については、「インストールしている」が14.4%、「インストールしていない」が83.3%となっています。

インストールしていない理由については、「知らなかったから」が60.2%と最も高い結果となりました。

性・年代別にみると、「知らなかったから」は、男女ともに「20歳代」から「50歳代」で高くなっています。「スマートフォン等を持っていないから」、「インストールの方法がわからないから」は、男女ともに「70歳以上」で高くなっています。

## 『和歌山県防災ナビ』のインストールをお願いします

### ○『和歌山県防災ナビ』とは

災害発生時に的確な避難を行っていただくための防災ポータルアプリです。避難に役立つ機能を備えています。

#### ・機能

避難先検索、ルートナビ、AR(拡張現実)の活用、防災情報通知、避難カードの共有、家族の居場所確認、避難トレーニング、河川水位情報、土砂災害危険度情報

### ○『和歌山県防災ナビ』のインストール手順

#### 1. QRコードの読込

右のQRコードにスマートフォンをかざし読み込んでください。

#### 2. インストールの実行

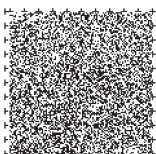
インストールが終了すると完了です。

※インストールの詳細い方法は県ホームページをご覧ください。

[<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/d00155183.html>]



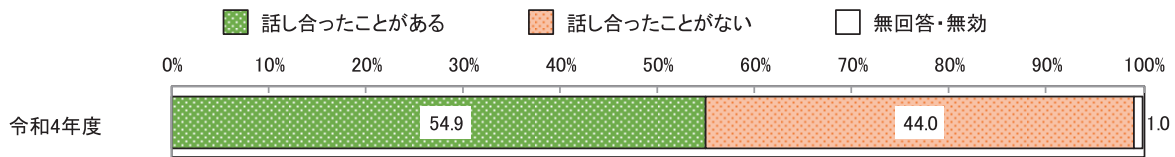
QRコード



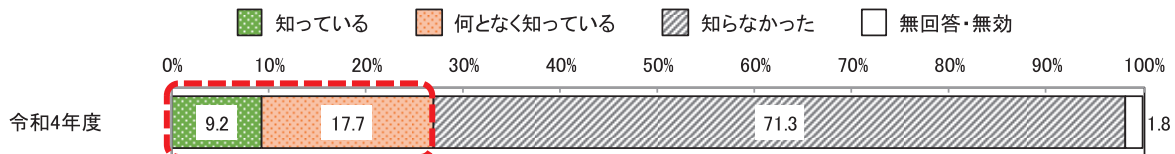


# 災害時の避難

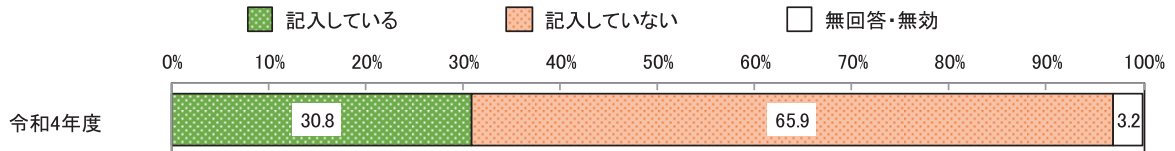
**Q** あなたは、家族と避難先や避難経路について話し合ったことがありますか。(単数回答)



**Q** あなたは、避難カードを知っていますか。(単数回答)

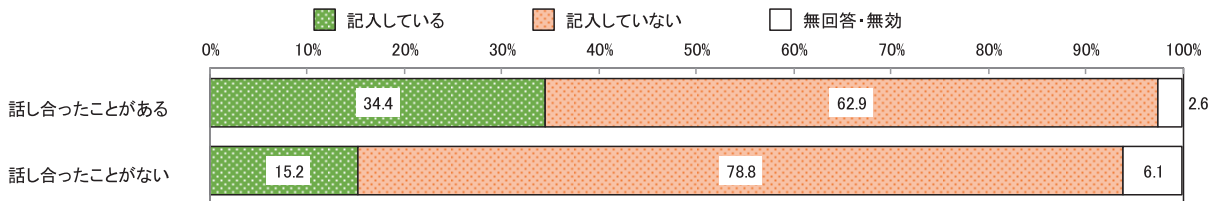


**Q** あなたは、緊急避難先等を避難カードに記入していますか。(単数回答)



クロス集計

家族と避難先や避難経路について話し合ったことがあるか × 緊急避難先等を避難カードに記入しているか

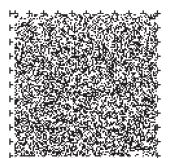


家族と避難先や避難経路について話し合ったことがあるかについて、「話し合ったことがある」と答えた人は 54.9%でした。避難カードについて「知っている」「何となく知っている」と答えた人の合計は 26.9%となっており、そのうち緊急避難先等を避難カードに記入している人は 30.8%でした。

家族と避難先や避難経路について話し合ったかどうかの違いをみると、「話し合ったことがある」と答えた人は、「避難カードに記入している」の割合が高く、「話し合ったことがない」と答えた人は、「避難カードに記入していない」の割合が高くなっています。避難カードを活用し、年一回は家族で避難場所や避難経路について話し合い、実際に確かめておきましょう。以下のページから避難カードをダウンロードいただけます。

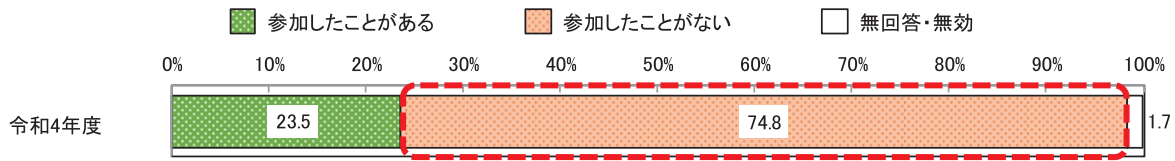
参照:「避難カード」(和歌山県HP)

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/hinancard.html>

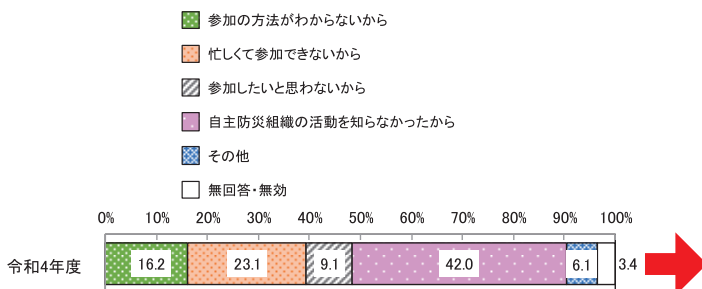



# 地域の防災活動

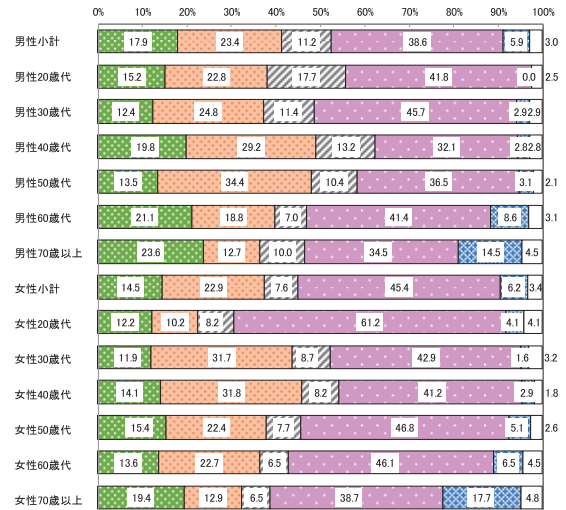
**Q** あなたは、今までに自主防災組織の活動に参加したことがありますか。(単数回答)



**Q** 自主防災組織の活動に参加しない理由はなぜですか。(単数回答)

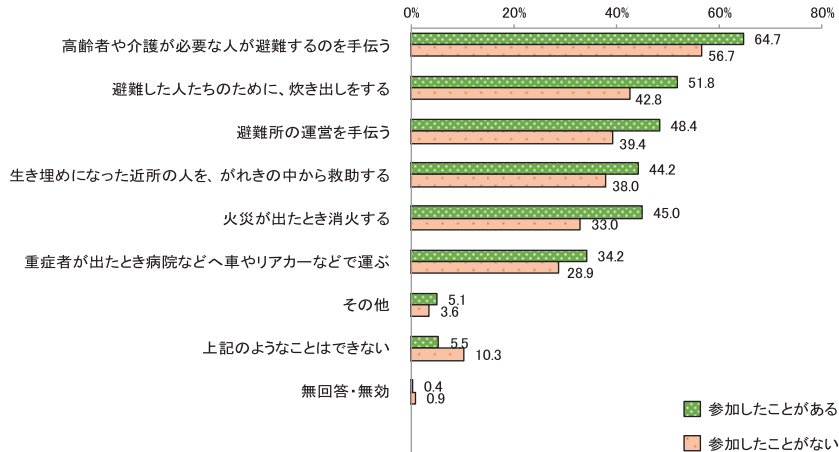


【性・年代別】



**!** クロス集計

自主防災組織の活動に参加したことがあるか × 大地震後、地域の人と協力してできることは何か



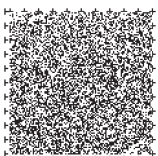
自主防災組織の活動に参加したことがあるかについて、「参加したことがある」と答えた人は 23.5%でした。

自主防災組織の活動に参加しない理由について、「自主防災組織の活動を知らなかったから」が 42.0%と高くなっています。

性・年代別にみると、「男性」の「40歳代」から「50歳代」、「女性」の「30歳代」から「40歳代」は、「忙しくて参加できないから」が高くなっています。

大地震後、地域の人と協力してできることについて、自主防災組織の活動に「参加したことがある」人は、「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」「避難した人たちのために、炊き出しをする」「避難所の運営を手伝う」「火災が出たとき消火する」が特に高くなっています。

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に、自主的に結成する組織のことです。いつ起こるかわからない災害のためにも、自主防災組織の活動に積極的に参加することが大切です。



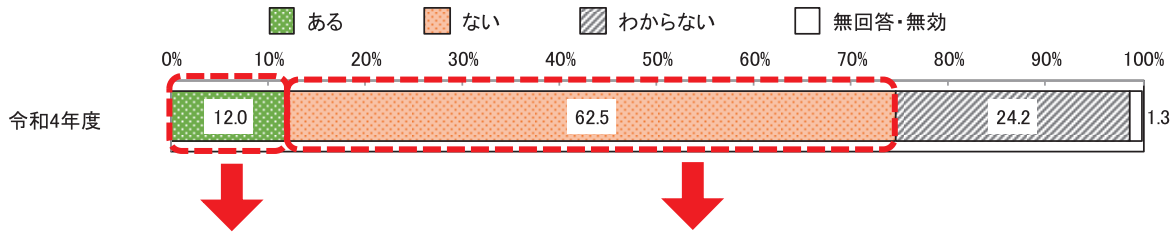
参照:「自主防災組織について」(和歌山県HP)

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/jisyubou.html>

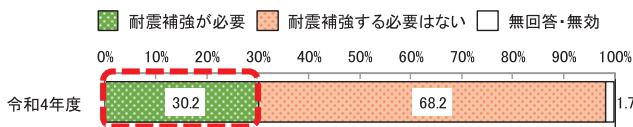


# 自宅等での防災対策

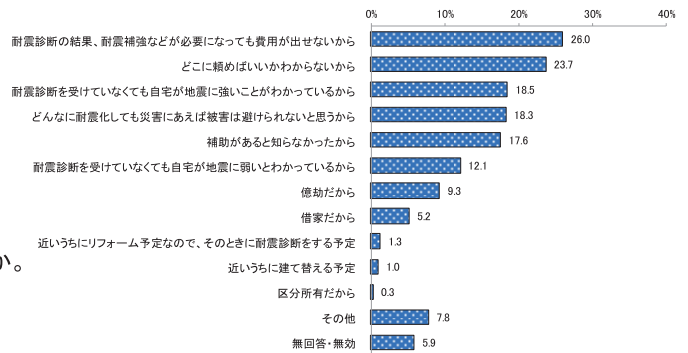
**Q** ご自宅は、専門家による耐震診断(地震の揺れに対する建物の強さの診断)を受けたことがありますか。(単数回答)



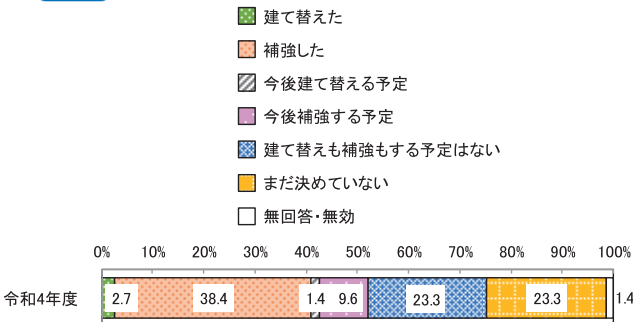
**Q** 耐震診断をした結果はどうでしたか。(単数回答)



**Q** 耐震診断を受けていないのは、どうしてですか。(複数回答)



**Q** 耐震補強が必要と診断された後、どう対応しましたか。(単数回答)

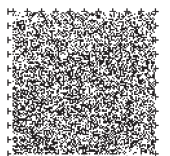


専門家による耐震診断を受けたことがある人は 12.0%、受けたことがない人は 62.5%でした。

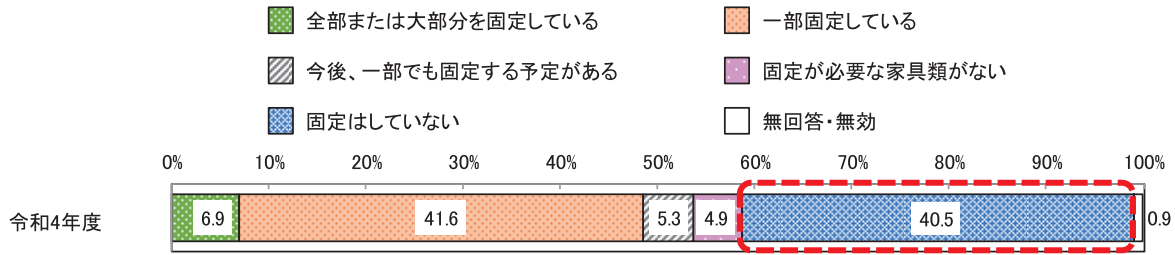
耐震診断を受けた人のうち、「耐震補強が必要」と診断された人は 30.2%となっています。耐震補強が必要と診断された後の対応について、「建て替えた」が 2.7%、「補強した」が 38.4%となっています。

耐震診断を受けていない理由について、「耐震診断の結果、耐震補強が必要になっても費用が出せないから」が 26.0%、「どこに頼めばいいかわからないから」が 23.7%と高くなっています。

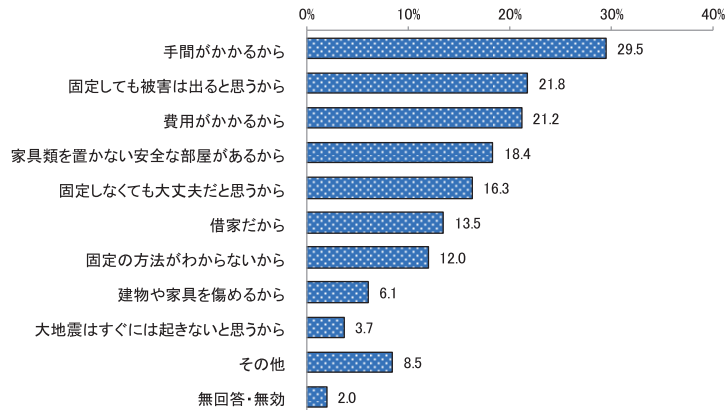
耐震性が不足する住宅は、大地震により倒壊するおそれがあります。住宅の倒壊は圧死の原因となるほか、津波や火災からの避難を妨げるおそれがあります。大地震から生命を守るには、耐震診断により住宅の耐震性を明らかにし、必要に応じ適切に補強することが重要です。(12 ページ参照)



Q あなたの自宅では家具等の固定をしていますか。(単数回答)



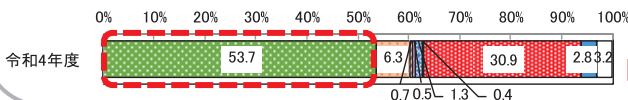
Q 家具等の固定をしていないのはどのような理由からですか。(複数回答)



家具等を「全部または大部分を固定している」「一部固定している」割合は、48.5%でした。また、「固定はしていない」と答えた人は40.5%でした。家具等を固定していない理由について、「手間がかかるから」が29.5%と高くなっています。L型金具等による家具の固定や、家具の置き方を工夫することで家具の転倒時の被害を軽減しましょう。(12ページ参照)

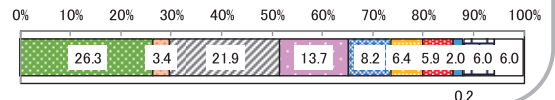
Q ご自宅のブロック塀や石塀、門柱などについて、地震が発生した場合に安全かどうか点検したことはありますか。また、点検した結果、どのような対応をしましたか。(単数回答)

- 点検していない
- 点検して安全と言われた
- 点検した結果、危険だったので、取り壊した
- 点検した結果、危険だったので、生け垣・フェンス等に変えた
- 点検した結果、危険だったので、対応を検討中である
- 点検した結果、危険だったが、今後、変える予定はない
- もともとない
- その他
- 無回答・無効



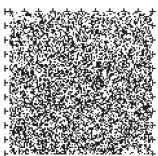
Q 点検していない主な理由は何ですか。(単数回答)

- 点検しなくても安全と思うから
- 点検するまでもなく危険だから
- 点検の方法がわからないから
- 費用がかかるから
- 借家だから
- 手間がかかるから
- 対策しても被害は防げないと思うから
- 大地震はすぐには起きないと思うから
- 地震災害に関心がないから
- その他
- 無回答・無効



自宅のブロック塀等の点検について、「点検していない」と答えた人は53.7%でした。また、「点検して安全と言われた」「点検した結果、危険だったので、取り壊した」「点検した結果、危険だったので、生け垣・フェンス等に変えた」と答えた人の合計は7.5%となっています。

基準に適合していないブロック塀は、倒壊により人的被害や避難路の寸断が発生するおそれがあり、大変危険です。ご自分や地域での安全対策をお願いします。(12ページ参照)

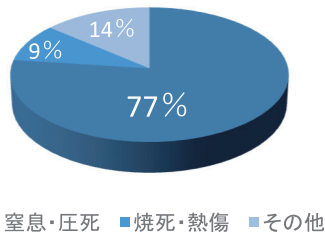


## 住宅の耐震化

阪神・淡路大震災では、建物の倒壊等が原因と考えられる「窒息・圧死」が死因の約8割を占めました。(図1)

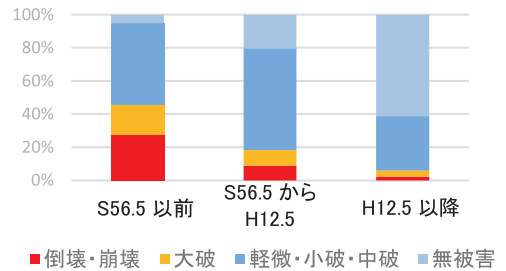
また、熊本地震では建築年代が古い住宅ほど甚大な被害を受ける割合が高くなりました。(図2)

図1 阪神淡路大震災での死因割合



厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」(1995.12)

図2 熊本地震での建築年代別被害状況



熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会報告書(H28.9)

## 耐震化の3STEP と支援制度

参照:「住宅の耐震診断・耐震改修に関する補助制度について」(和歌山県HP)  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080800/taishin/top.html>



### STEP① 診断

住まいの耐震性をチェック!

- ▶ 木造住宅 (平成12年5月以前建築)

耐震診断士の派遣

**無料**

- ▶ 非木造住宅 (昭和56年5月以前建築)

診断費の2/3  
最大89,000円を補助

### STEP② 相談

専門家が疑問や不安を解消!

- ▶ 診断の結果、耐震性が不足すると判断された木造住宅に対して、
  - ・改修プランの提案
  - ・概算費用の提案
  - ・業者選定の助言などを行う「耐震マネージャー」の派遣

**無料**

< 木造住宅 耐震改修サポート事業 >

### STEP③ 対策

地震に強い住まいへ!

- ▶ 一定以上の耐震性を確保する補強設計と改修工事への補助

**最大116万6千円**

定額 66万6千円 + 工事費の40% 最大50万円

自己負担0円で改修できる場合もあります。現地建替も補助の対象です。

用意する金額を減らせます

<補助金の代理受領制度>

補助金を工事業者に支払うことで、用意するのは工事費から補助額を引いた差額だけでよくなる制度です。

住まいの一部だけでも、安全に

<耐震ベッド・シェルター補助制度>

ベッドのまわりの空間を補強するのが耐震ベッド、部屋の内部を鉄骨や木材で補強するのが耐震シェルターです。

診断の結果、耐震性が不足すると判断された木造住宅に、設置費用等の2/3 最大26万6千円を補助

※制度を活用する場合、業者等との契約の前に申請が必要です。また補助には要件がありますので、必ず事前にお問い合わせください。

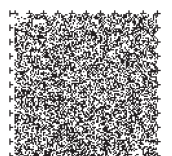
## 家具の固定

- L型金具等による家具の固定や、家具の置き方を工夫することで家具の転倒時の被害を軽減しましょう。
- 県では家具固定施工事業者登録制度を設けています。施工事業者をお探しの際にはご活用ください。(施工費用等は別途必要です。)
- 市町村によっては、要配慮者等を対象に家具の転倒防止金具等の購入・取付費用の補助制度を設けています。

## ブロック塀の安全対策

- 平成30年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震では、ブロック塀の倒壊により人的被害が発生しました。
- 基準に適合していないブロック塀は、倒壊により人的被害や避難路の寸断が発生するおそれがあり、大変危険です。ご自分や地域での安全対策をお願いします。
- 改修方法等に関する相談が出来るよう地域毎に建築士関係団体の相談員がおりますので、撤去等について検討いただく際の相談先として活用いただけます。
- 市町村によっては、ブロック塀の安全対策に係る費用の補助制度を設けています。

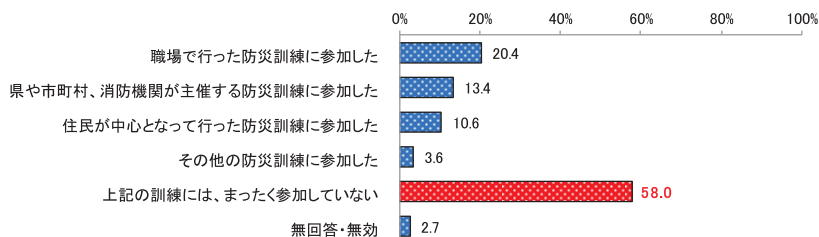
参照:「家族と地域の命を守るブロック塀の安全対策及び家具固定の推進について」(和歌山県HP)  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/blockwall.html>



# 日頃の防災対策

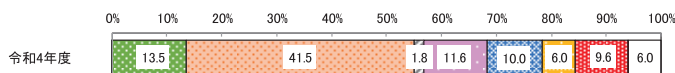


あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する防災訓練に参加したことがありますか。  
(複数回答)

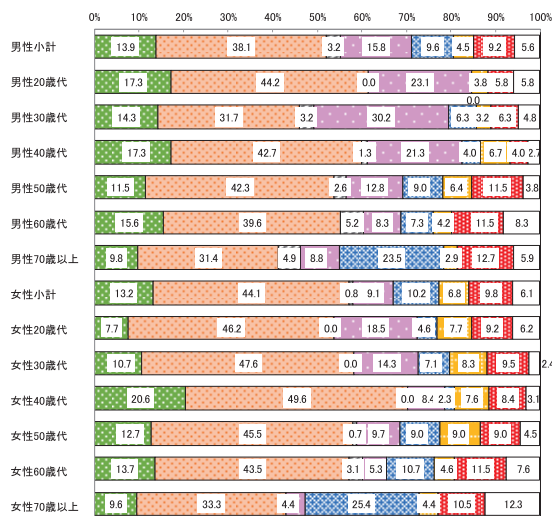


なぜ、訓練に参加しないのですか。(単数回答)

- 参加したいが、外せない用事等が入っていたから
- 防災訓練が実施される機会がないから
- 訓練に参加しなくても、経験や知識があり、実践に生かすことができるから
- 興味がないから
- 自身や家族の体力や健康上の理由から参加することが困難だから
- 感染症が不安だから
- その他
- 無回答・無効



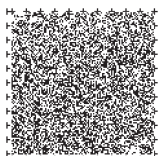
【性・年代別】



過去一年間に「防災訓練に参加していない」と答えた人は 58.0%でした。

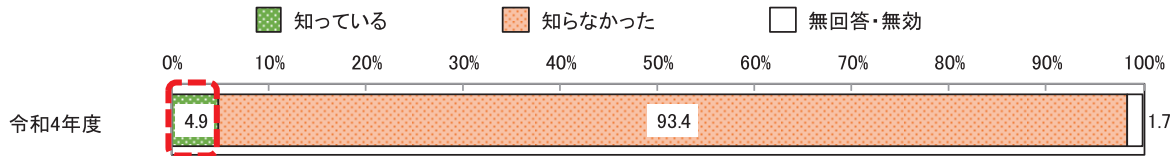
防災訓練に参加していない理由について、過去一年間において「防災訓練が実施される機会がないから」が 41.5%と最も高くなっています。また、今回の調査より「感染症が不安だから」という選択肢を追加したところ、6.0%の回答がみられました。新型コロナウイルス感染症の影響により、防災訓練が実施される機会や参加する機会が減少していると考えられます。

性・年代別にみると、「男性」の「30歳代」は「興味がないから」が高く、「女性」の「20歳代」から「60歳代」では「防災訓練が実施される機会がないから」が高くなっています。

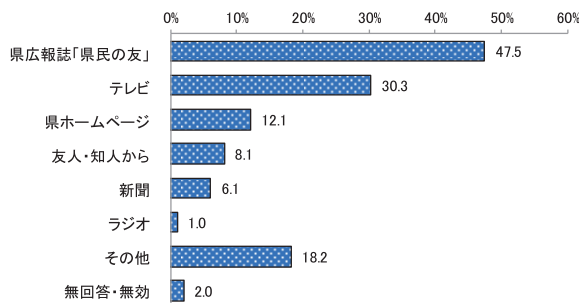


# 県や市町村の防災対策

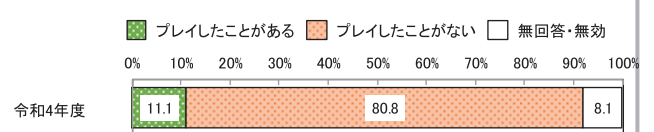
**Q** あなたは、和歌山県が作成した災害対応シミュレーションゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」を知っていますか。  
(単数回答)



**Q** 何で「きいちゃんの災害避難ゲーム」を知りましたか。  
(複数回答)



**Q** 「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイしたことはありますか？(単数回答)



「きいちゃんの災害避難ゲーム」を知っているかについて、「知っている」と答えた人は4.9%、「知らなかった」と答えた人は93.4%でした。

何で「きいちゃんの災害避難ゲーム」を知ったかについては、「県広報誌『県民の友』」が47.5%と最も高くなっています。

また、「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイしたことがあるかについて、「きいちゃんの災害避難ゲーム」を「知っている」と答えた人のうち、「プレイしたことがある」と答えた人は11.1%でした。

## 災害対応シミュレーションゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」

津波からの避難行動や避難所運営のポイントを楽しみながら実践的に学べるボードゲームです。

県ホームページにて公開しているほか、市町村や振興局での貸出も行っていますので、ぜひご活用ください。

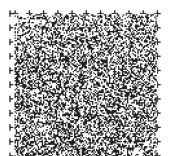


問い合わせ窓口：防災企画課 TEL.073-441-2271 FAX.073-422-7652

参照：「きいちゃんの災害避難ゲーム」(和歌山県HP)

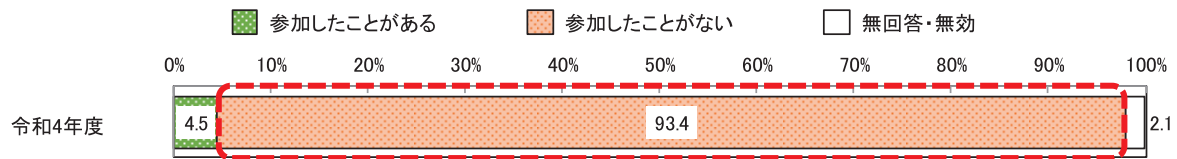
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/kiichangame.html>

※ゲームのイラストデータをダウンロードし、印刷して活用することができます。

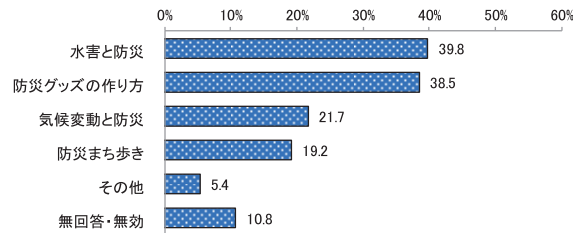




あなたは、和歌山県が主催する体験型研修「出張！減災教室」に参加したことがありますか。(単数回答)



どのような講座があれば参加したいですか。(複数回答)



体験型研修「出張！減災教室」に参加したことがあるかについて、「参加したことがある」と答えた人は4.5%、「参加したことがない」と答えた人は93.4%でした。

「参加したことがない」と答えた人にどのような講座があれば参加したいかたずねたところ、「水害と防災」が39.8%、「防災グッズの作り方」が38.5%と高くなっています。

和歌山県では、今後発生する可能性が極めて高いと言われている南海トラフの地震による津波からの避難、地震の激しい揺れに備えるため、地震や津波についての基礎知識、家具固定の重要性、避難所運営等について分かりやすく学んでいただくために、防災・減災に関する出前講座、「出張！減災教室」を実施しています。

和歌山県内のご希望の場所にスタッフが出向き、出前講座や地震体験車による地震体験等の体験型の研修で広報・啓発を行い、県民の防災意識の向上を図ることを目的とした県の防災・減災啓発事業です。県内全域において、学校の防災教育、自主防災組織・自治会の集会、市町村の防災イベント、企業の防災研修等で幅広くご利用いただいています。

## 「出張！減災教室」

「出張！減災教室」では、県内のご希望の会場にスタッフを派遣し体験学習を中心とした、防災・減災についての講座や実演を行っています。

学校の防災・減災教育、自治会や企業の研修等にご利用ください。

- 地震を体験したい
- 授業や行事で防災を学びたい
- 家具の固定方法を知りたい



### メニュー

- ◆ 「地震体験車 ごりよう君」による地震体験
- ◆ 地震・津波についての基礎講座 (約1時間)
- ◆ L型金具等を用いた家具固定講座 (約1時間)
- ◆ 避難所運営ゲーム等を用いた防災学習 (約3時間)
- ◆ 構造模型を用いた住宅の耐震化講座 (約1時間)
- ◆ きいちゃんの災害避難ゲーム (約3時間)

申込窓口：株式会社貴志(危機管理・消防課内)

TEL.073-441-2280 FAX.073-422-7652

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011600/soumu/gensaikyousitu.html>

